

第4回 生駒北小中一貫校保護者説明会

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成25年6月5日(水) 19:00~21:00
- 2 開催場所 生駒北小学校体育館
- 3 出席者 約20名
- 4 回答者 小柳奈良教育大学教職大学院教授、十文字生駒北小学校長、本田生駒北中学校長
峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、吉村教育指導課課長補佐
- 5 開会あいさつ (峯島部長)

6 資料説明 (伊東課長)

小学校6年間、中学校3年間の枠組みは変えずにスタートさせたい。今と大きく変更しない方がスムーズに移行できる。中学校になって京田辺市の普賢寺小学校から来る生徒に不利益があってもならない。同様の理由で教育課程も文科省の学習指導要領に基づいたもので、大きな変更はしないでスタートさせたい。しかし、小中一貫教育が軌道に乗り、子どもの実態を把握した上で、特色ある、そして魅力ある教育課程を作っていくことは可能である。

小中一貫校の6・3制とか4・3・2制というのは指導のまとまりである。6・3でも4・3・2でも小学校6年、中学校3年というのは変わらない。富雄第三小中学校は4・3・2制で、5年生から教科担任制である。確かに理科や算数はその教科を専門としている先生に、中学校の学習内容を意識した指導を受ける方が効果的だ。しかし、学習指導要領でその学年が学習する内容は決められているので、他の学校と学習内容は変わらない。

学習指導要領に基づく学習内容だが、例えば生駒市では3年生から外国語指導助手による英語指導を行っている。中学校の英語教員もおり、学校として英語教育に力を入れていこうということになれば、現行の学習指導要領のままでもその拡大も可能である。また、生駒北中学校では毎年のように先端大の先生から先端科学についての指導を受けている。それから、生駒北小学校でも生駒北中学校でも茶釜作りに関する学習を行っている。いずれも生駒北中校区での地域性を活かした学習で、小中一貫校の特色ある教育活動にしていける。

全国の小中一貫校では、〇〇小中学校や〇〇学園という名前をよくつけている。しかし、これは通称名で、小中一貫校になっても正式には生駒北小学校、生駒北中学校であり、今と変わりはない。小学校では小学校の活動、中学校では中学校の活動を行う。小学校の委員会活動では小学校6年生がリーダーになって活動するなど、意図的に6年生が中心となる機会を設けて小学校最高学年としての意識を持たせていくことができる。

学力向上は大きな課題であり、また簡単に解決法の見つからない課題でもある。学力向上で効果が見られた

という小中一貫校は多い。教員配置に柔軟性があることが理由の1つだろう。富雄第三小中学校でも教頭は2人いたが校長は1人だけだった。校長を1人だけにした分、直接子どもの指導にあたる教員を増やし、少人数指導など個別指導を充実させ、学力向上につなげることができる。それから富雄第三小中学校では小学校の教員も部活動の顧問をしており、部活動指導の充実にもつながっている。

学校行事は小学校も中学校も現行の行事を踏襲するが、小中一貫教育が軌道に乗れば一緒にやった方がよいものを選択して合同で実施する。また、掃除など日常活動を小中一緒に行うこともあり、中学生は小学生の模範となっている。これが小中一貫校で中学生の問題行動が減るゆえんだろう。小さい学年の子どもに中学生がやさしく接するところを視察した富雄第三小中学校でも見た。部活動にも小学生が加わる。活動時間や日数に制限はあるが、部内で中学生は小学生の面倒を見る。こういった幅広い異学年交流の中で子どもたちは育っていく。

小中学校の先生方の協力体制だが、富雄第三小中学校では職員室が一緒だった。身近にいることで自然と情報交換も協力できる雰囲気も出来上がる。また、小学校の図工の授業を中学校の美術の先生が行い、小学生の英語の授業を中学の英語の先生が行っていた。小学生に指導するにはわかりやすい話し方やわかりやすい板書が求められ、それが先生の指導力向上につながる。小学生の時から知っている先生がいることで、生徒指導は従来に比べてより強力な体制になる。生徒にも安心感があり、問題行動や不登校が減った事例が多い。すべてうまくいくとは限らないが、何か問題があっても解決方法を見出すことでデメリットをメリットに替えることができる。

7 質疑応答

地域 : 懇話会では10月末をめどに小中一貫校の是非について結論を出すということだった。その理由が高山幼稚園の耐震化工事の予算要求があるから、ということである。どうして小中一貫校の設置の決定をもって、高山幼稚園の耐震化工事が決まるのか。そのことについて「おかしい」と言うと、「懇話会は決定機関ではないから」とわけのわからない回答である。こども園についてはこども園の懇話会の結論で設置を決定し、予算要求するのではないのか。

市教委 : 小中一貫教育をしたいという市の考えに対して秋ぐらいには懇話会で一定の方向を出していただき、最終的には市が判断するとお話した。市としては秋までにお問い合わせしたいと申し上げた。こども園の設置は高山幼稚園の耐震化が必要なためである。10月は小中一貫校をするのかどうかのめどであって、施設云々はそれからである。施設など具体的内容についてはワークショップ形式でまとめていきたい。

地域 : 懇話会は教育的観点から検討しているはずだ。小中一貫の是非を検討しているわけではないはずだ。

市教委 : 小中一貫をするのかどうかのお話をしてもらっている。施設一体型の小中一貫校がいいのか、いいかないのかだ。

地域 : 要るか要らないかの是非を話し合っているのか？懇話会でそこまでするのか？

市教委 : 意見を頂くということで、決めていただくのではない。

地域 : 保護者や先生の中に不安に思っている人がいるということで、その不安をなくすために懇話会を開いていると思っていた。

- 市教委 : そうである。第1回目の議事録を見てほしい。
- 地域 : 是非というのは・・・そんなことを懇話会の皆さんはできるのか。
- 市教委 : 是非は問わない。小中一貫校の設置に対してご意見をいただいている。
- 地域 : 懇話会で反対が多ければ小中一貫について見直すというが、その決定はいつ、だれが、どんなタイミングでするのか。懇話会のメンバーの反対で決まるのではないはずだ。懇話会は先生や保護者の不安を取り除いていただいたらいいと思っている。市はこども園については一体いつ、どのタイミングで進めていこうとしているのか、それが全然わからない。
- 市教委 : こども園も、小中一貫をしないとすると、敷地を新たに見つけなければならない。
- 地域 : 一定の方向性を出す時、それはいつだれを対象にどんなタイミングでするのか。
- 市教委 : 懇話会は、いろんな方に意見をいただく場としている。懇話会の中で育友会代表として来ていただいている方は、自分の意見だけでは決められないということで育友会としてアンケートをとられた。自治会の代表者として来ていただいている人もいる。推進ありきではなく、小柳先生を座長として懇話会を進めている。小中一貫をやるかやらないか決まらなと施設については話し合えない。これが済まないと、こども園も場所からやり直さないといけない。今、こども園は懇話会を開いていない。しかし、高山幼稚園と北倭保育園の先生は保育の様子を見に行くなど、もうすでに交流しているが、保護者を交えてのことはしていない。設計の予算をもらうにはやはり見極めとして10月かなと思っている。もうそろそろ小中一貫については具体的な話を進めてほしいという意見も聞いている。保護者も動いているようだ。
- 地域 : みんなの不安がなくなるまで懇話会を開いていただけたら、それでいいのではないか。
- 市教委 : もう少し踏み込んでやってほしいという意見がある。だから、6月の懇話会では市のビジョンを示していきたい。
- 地域 : 市の構想全体のスケジュールをもう少し丁寧にみんなにわかるようにホームページにアップしてほしい。小中一貫の懇話会だけが進んでいて、こども園の懇話会は何も進んでいない。高山幼稚園という公立の幼稚園がなくなるのは絶対に反対だという意見を親から聞いている。
- 市教委 : こども園のことについては預からせていただく。いずれ入学してくる幼稚園の保護者にも小中一貫の話をしていこうと思っている。
- 地域 : 今回初めて説明会に参加した感想だが、懇話会はあつていい。育友会や地域は意見をまとめる方がいい。長い間話をされているが煮詰まっていない感じがする。子どもも連れて奈良市の先進校を視察し、子どもたちがどういう気持ちか保護者が聞く。お母さんがしゃべりやすいような会にしていけないといけない。
- 市教委 : 育友会代表が視察に行き、育友会に報告したと思う。地域の人も自治連合会会長に会いに行ったようだ。
- 保護者 : 保護者がいつどのタイミングで意見を言えばいいのか不安である。自治会代表が「学校を残さない」と言う。また、校長が小中一貫はいいと言った。それらの意見を懇話会で聞くうちに、保護者が意見を言える状況になってきた。保護者は意見を言いづらい。私は育友会に関わる者として、保護者一人一人に意見を聞くつもりでいようと思っている。小中一貫校に反対する人は一部である。一貫校が要らないというわけではなく、「市があれば言うのでいいんじゃない？」という人が多

い。小中一貫をするかしないかより、どういう小中一貫校にするのかを話し合いたい。自分の子どもが中学生である間に新しい施設で過ごさせてやりたい。保護者がどのようにして保護者の意見を吸い上げていったのか、富雄第三小中学校の保護者とつながって聞いていこうと思っている。10月末をめどにするのはいいことだ。区切りをつけないとずるずる先送りされて何も決まらない。そのためにも今からしっかり意見を言える保護者を作っていこうと思う。いいものを子どもたちに、というのが親の願いだ。今日の市の説明は分かりやすかった。市には保護者の意見を真摯に受け止めてもらっていると感じている。

保護者： 12日の講演を聞いた。小柳先生の話はよくわかった。小中一貫が何なのか分からない状態で聞きに行ったから、9年間で目に見える成長と目に見えない成長があることなど、よくわかった。地震はいつ起こるか分からない。中学校の校舎は老朽化している。一貫校になればいい学校になる。

保護者： 建物だけが変わるのでは意味がない。市は学力についても考えてくれている。しかし心配なことがある。近所には公園がないので遊ぶのは学校である。小中一貫になれば放課後の運動場は部活動で使っている。子どもの遊び場がなくなる。また、通学路はどうなるのか。

保護者： 12日の講演会は難しかった。しかし、小中一貫校は楽しみだ。

保護者： 12日の講演会には行けなかった。周りの人に聞くと1度目の説明会の時とは雰囲気が変わったということだ。市と保護者との話し合いは前に進んでいる気がする。しかし、まだどうしていいかわからない状態だ。

保護者： 説明会には何回か参加している。新聞など報道が先でそれから受けた印象はずいぶん強権的なイメージだった。10月に決定するということについてのイメージは、「有無を言わず決める」だったが、今日の話聞いて、10月をめどに地域や保護者の意見を入れて決定するという雰囲気は分かった。

市教委： 小中一貫をするのかしないのか、その選択を集中して考えていただいている懇話会である。子ども園や給食センターの話は小中一貫がまとまってからのことで、今は考えないようにしている。小中一貫をするのかしないのか、その選択を懇話会に集中して話し合ってもらっている。小中一貫校を作るとなれば、設計業者についてはプロポーザルで業者を決めたいと思っている。設計に時間をかけたい。方向性が決まれば、年度末までに補正予算を取って設計に移りたい。ワークショップ形式で設計に皆さんの意見を取り入れて「自分たちが作った学校」となるようにしたい。

地域： 評議員や地域ぐるみの委員をしているので、保護者の声を聞きたくて来た。地区懇では保護者の生の声を聞ける。保護者と先生方の心配をなくすため、そういった会に市が出席してほしい。地区懇は少ない人数なので意見が出しやすい。先生も不安だろう。先生の不安は子どもに伝わってしまう。

市教委： 学校長にも懇話会に入ってもらっている。小さな不安や言いにくいこともあると思うので、そういった集まりがあれば市の者と呼んでほしい。学校の先生方には教育長が直接話をしている。

学校長： 子どもの人数が減ると学級数が減るので不安である。しかし小中一貫教育を進めることに迷った時期があった。それは小中一貫が自分にとって未知の部分だから、つまり自分が経験していないからだ。しかし、このまま子どもの数が減り続けたら北小がじり貧になる。迷った時にはやるというのが私の信条だ。校長である私が迷っていたら教員も迷うだろう。だから、やると強く決めた。初

めてのことをするときにはしんどいが、やり遂げたら親はついてきてくれる。様々な課題で苦勞した分戻ってくる。やるからには現状維持でなく、それ以上のことを目指そうと思う。私は学力向上と伝統が生駒北小中一貫教育のキーポイントだと考えている。小学校1年生からの英語教育も充実させたい。このように私にはやり始めのわくわく感がある。施設も充実させようと思っている。

学校長 : 小中一貫がもう始まっているものだと思って赴任した。小中一貫になればしんどいかもしれないが立派なものに肉付けしていきたい。素材はたくさんある。先端大、ほたる、生駒山上にはプラネタリウムもある。興味を持つ子を導いていくのが教員の役目である。生駒の小中一貫校を卒業したと胸を張って言える子にしたい。

地域 : お母さん方に感心した。去年の10月12日の初めてのタウンミーティングでは不安と反対と慎重だけだった。今日の市の説明はよくわかった。市に要望ばかりを言わずに、学校と保護者と地域が三位一体になって新しい物を作るという意識を持たないとだめだ。今まで4回の説明会があったが、堂々巡りの話もある。もう一歩前に入る時期に来ている。

保護者 : 生徒の人数が少なく、今後増えることもないだろう。人数が少ないからこそこんなことができるという事例を教えてほしい。

小柳教授 : 薬をくれるだけの医者がいいとは思わないだろう。いい医者は検査をしてくれて丁寧に診てくれる医者だ。そうしてくれると信頼が生まれる。経験と勘とコツがそれには必要だ。人数が少ないと丁寧に見ていくことができる。丁寧に見て丁寧に指導してその子の可能性を見極めていくことができる。9年間一人ずつ画像を撮りためている学校があって、それを見ると自分の成長がわかり、変化したことに気付く。人数が少ないからそういうことができる。

地域 : 自治会代表者3名で富雄第三小中学校創立時に地域をまとめられた自治連合会長さんに話を聞きに行った。今のこの地区の状態と重なることがある。マスコミへの発表が先で、親御さんたちは反対した。しかし、自治連合会は地域全体の将来のことや地域の子どもたちのためを考えて、反対意見の人と向き合った。プランニングは自治会も入る作業部会が行ったので、自分たちで学校を作った、地域が学校を支えているという思いが強い。

地域 : 昨年10月以来何回も足を運んだが、今日は自由に参加者が発言している。小中一貫教育の種を高山地区に落としていただいた。これからは地域でどンドン育てていく。三位一体となって市がまいた種、つまり点を線と面にしていく。高山は試されている。保護者も頑張ると言っているし、自治会も落ちた種を育てようという気になっている。

地域 : 地域ぐるみの会にも市に来ていただきたい。

市教委 : 行かせていただく。生駒で唯一の小中一貫校で特別な学校である。今後、指定校変更などで来た人に来てもらえる制度作りもするつもりである。

京田辺市 : 6・3制をゆくゆくは変えるのか？その点が不安である。

市教委 : 4・3・2制などと言うがそれは指導のまとまりのことである。指導する内容は6・3制であっても4・3・2制であっても変わらない。学校の体制は学校が作る。普賢寺小学校の子どもたちが中学校1年生から入学することをふまえて教育課程を作るので不利になることはない。

保護者 : 普賢寺小学校の保護者だが、情報が全く入ってこない。保護者同士で聞く話もまた聞きばかり。何とか情報を得たくて講演会後に北中の保護者に声をかけた。親同士が交流を持ったほうがいい。

6月8日に保護者ばかりで集まるので、そこに参加していただきたい。

市教委： 懇話会だよりを通して 京田辺市教委と連絡を取り、該当地域の小学生に伝えるようにしている。

小柳教授： 一歩前に進んできた感じがする。方向が決まらなければ話し合いにならない。情報がないと不安になり、不安が多くなるとそれが不信感に変わる。子どもとどれくらい一緒に過ごしたか、が教育で大事なところである。子どもを大事にし、振り返ると学校が一番の思い出だったという子どもを地域で作っていかねばならない。

地域： 一貫校については前向きに話が進んでいるのでいいが、不安が募ったのはこども園のことだ。こども園については10月末まで考えないと市教委は言った。こども園についての具体的なことをホームページで言ってほしい。10月末の予算要求は高山幼稚園の耐震かこども園のことか。

市教委： こども園を作らないのではない。こども園をどこに作るかは現時点では考えないということである。こども園は作る方向で考えている。

地域： そうしたらこども園についてはいつから検討するのか。10月末の予算要求するまでに検討するのか。市の考えがわからない。その情報がない。

市教委： 市のパンフレットで提案した内容が、今は止まっている。

地域： 予算要求するまでにこども園はどうするのか。

市教委： 先ほども言ったように幼稚園と保育園との交流はすでに行っている。

地域： こども園について懇話会を開くと市は言ったがそれはいつからか。

市教委： 未定である。秋以降になるだろう。

地域： 秋というのは予算要求の前か、後か。

市教委： 予算は関係していない。高山のこども園は北俣保育園に運営していただく「認定こども園」ということで、こども園は市では建てない。

地域： 高山幼稚園の耐震があるから10月末までに結論がほしいと言った。答えが出たらどうするのか。

市教委： 予算要求はしない。耐震診断はすでに終わっている。

地域： 「こども園はしない」と言ったことをホームページでアップしてほしい。どういう計画で動いていくのか地域住民にわかるようにしてほしい。こども園は決定事項なのか。

市教委： 提案しているということだ。

地域： 小中一貫が決まったら、こども園は自動的に進むということか。

市教委： 今はそれについては提案を翻してはいない。

地域： 高山幼稚園の説明会では保護者の声がホームページにアップされていない。市にとって都合の悪いことはアップしていない。こども園に反対するなら高山幼稚園の子どもはあすか野幼稚園に行ってもらふことになるかと脅迫めいたことを言っているが、載っていない。

市教委： 終了予定の時刻が過ぎているので、こども園のことは閉会后に聞かせていただく。

8 事務連絡 (事務局)

○今日の説明会の様子については、後日ホームページに掲載する。

○次回の懇話会は6月20日(木)で、傍聴可能。

9 閉会あいさつ (峯島部長)